中部圏ビジョンのアウトラインについて（案）

2024年２月１日
経済委員会事務局

中部圏ビジョンの構成について

第Ⅰ部　2050年中部圏ビジョン

１．2050年未来社会（人口動態・経済規模からの想定）
２．2050年未来社会（科学技術面からの可能性）
３．ありたい2050年未来社会（日本全体）
４．ありたい2050年未来社会（中部圏）

第Ⅱ部　中部圏が目指す具体的な方向性・取り組み

１．産業の進化と多様化
２．人材と働き方の進化
３．持続可能な地域社会の形成

第Ⅰ部：2050年未来社会

1. 人口動態・経済規模からの想定

(1)人口減・少子高齢化・労働力希少社会

＜世界＞

・総人口は増加の一途をたどり、2086年(104億人)にピーク。以降は人口減少へ。（2000年:61億人、2050年:97億人、2100年:103億人）

＜日本・中部圏＞ （単位:百万人）※数値は社人研推計（2023年４月、中部圏は12月）

総人口	2020年	2050年	増減数	増減率(%)	2070年	2100年
日本	126	105	△21	△17%	87	63
中部圏	17	14	△3	△18%	–	–

外国人数（外国人比率）	2020年	2050年	2070年
日本	2.75（2.2%）	7.29（7.0%）	9.39（10.8%）
中部圏	–	–	–

高齢者数（高齢化率）	2020年	2050年	増　減	2070年
日本	36.0（28.6%）	38.9（37.1%）	2.9（8.5P）	33.7（38.7%）
中部圏	4.8（28.2%）	5.2（37.5%）	0.4（9.3P）	–

生産年齢人口（同比率）	2020年	2050年	増　減	2070年
日本	75.1（59.5%）	55.4（52.9%）	△19.7（△6.6P）	45.4（52.1%）
中部圏	10.1（59.3%）	7.3（52.3%）	△2.8（△7.0P）	–

(2)日本の相対的経済規模の縮小

・日本のGDPの世界GDPに占めるシェアは急速に低下（1994年：17.8%、2001年：12.9%、2022年：4.2%、2028年：3.9%、IMF実績・予測）。中部圏の域内総生産は全国の14.5%（2020年度）。

・一人当たりGDP（名目）の国別ランキングも2000年第2位から2022年第32位まで低下。

・中部圏の一人当たり県民所得は全国を若干上回る水準（2020年度：全国の101.4%）。

2. 科学技術面からの可能性

公表されている各種未来予測から、可能性のある未来社会を以下の分類で整理

(1)リアルとバーチャルの融合

・人が身体、脳、空間、時間の制約から解放

・各種AIロボット実現、量子技術による革新

(2)ライフサイエンス（ウェルネスの向上）

・超早期疾患予測・予防、寿命の大幅延伸

(3)食料・水

・技術革新により食糧難は起きないとの予測もあり

(4)資源・エネルギー・環境

・資源・エネルギー制約克服との予測もあり

(5)防災・インフラ

・極端風水害の脅威から解放された社会の実現

(6)フロンティア開拓（宇宙・地底・海洋）

(7)製造業

・様々な新素材、３D印刷、ｱｰﾊﾞﾝ･ﾏｲﾆﾝｸﾞ

(8)モビリティ

・交通事故・渋滞「ゼロ」へ、街づくりと連携

(9)働き方・教育・人材育成

・AIによる抜本的な変化、人生百年超時代

(10)世界の重大リスク

・核戦争、生態系の破壊、AI戦争

第Ⅰ部：ありたい2050年未来社会

3. 日本全体

<マインドセット>
・未来に対する強い意志を持つ
・先端技術開発・イノベーションを最大限推進
・「人間とは何か」が問われる覚悟　他

<目標>
・人口減少下における持続可能性（経済・社会・環境）と経済成長の両立

<重視する価値観>
・人間性（AIとの対比）、多様性・包摂性

<日本全体のありたい姿>
①資本蓄積を軸とした経済の好循環
②人口減少スピードの緩和、供給制約克服
③世界に対して高齢化社会のモデルを示す
④AI時代に対応した学校教育再構築
⑤多様な生き方・働き方によるウェルビーイング達成
⑥持続可能性の高い自立・分散型と循環型のハイブリッドな社会の形成
⑦脱炭素・循環経済・自然再興（ネイチャーポジティブ）の統合的な実現
⑧人口減に対応した適正な社会インフラの維持・形成、レジリエンスを強化した安全安心な社会
⑨東京一極集中是正（大規模災害時にも日本の中枢機能が麻痺しない社会）
⑩世界に対してソフトパワーを発揮し、世界の発展と平和に貢献

4. 中部圏

～世界中から人・モノ・カネ・情報を引き付ける魅力と活力のある地域～

<マインドセット>
・地域の独自性に価値があることを認識し、地域資源・資本を活かす。
・グローバルに考える（東京標準ではなく世界標準で）
・オープンマインドで国内外から多様な人材を受け入れ、チャンスを与える。

<中部圏のありたい姿>
①産業の進化と多様化の継続的な推進
②エコシステムによる絶えざるイノベーション創出
③特にモビリティ分野を起点に新たな価値を創出し世界を先導
④国内外から多様な高度人材集積。当地域での人材育成により、他地域にも高度人材を供給
⑤多くの来訪者を国内外から惹き付ける魅力と活力
⑥東京一極集中の是正を実現する広域圏の「ひな型」
⑦リニア開業効果・日本中央回廊の形成効果の最大化
⑧災害リスク（特に南海トラフ地震）対策により、レジリエンスが高く安全安心
⑨安心して子供を生み育てられ、高齢者・障がい者、外国人に優しい
⑩国内外から人を魅了する「文化・芸術」、「遊び」があり、「シビックプライド」も高い

第Ⅱ部：基本的な考え方

・中部圏の経済社会を一段と高い成長軌道に乗せていくためには、個別の産業・業種論よりも、全体観を持った今後の活動の指針を打ち出すべきと考える。

・経済・社会・技術が急速に変化し、産業の境界もなくなりつつあるなか、中部圏でリードすべき個別の産業分野を特定することは妥当性に乏しい。

・中部圏において経済成長と持続可能性の両立を図り、人口減少下においても経済的・精神的に豊かで活力ある社会とするためには、その基盤となる、産業・人材・社会構造のあり方・施策を打ち出すことが重要である。

・そこで、2050年を見据え、中部圏が目指す具体的な方向性・取り組みの柱として「産業の進化と多様化」、「人材と働き方の進化」、「持続可能な地域社会の形成」の３つを立てる。

第Ⅱ部：中部圏が目指す３つの方向性・取り組み

１．産業の進化と多様化
～既存産業の高付加価値化と新規領域の開拓～

・モノづくりで発展してきた中部圏として、既存産業の高付加価値化（進化）と製造業（自動車産業）からの多様化を図る

２．人材と働き方の進化
～労働力希少社会への対応とウェルビーイングの達成～

・人口が大きく減少していくなか、人（ヒト）を成長の源泉と位置づけ、中部圏は「人材・働き方」においても先進地域を目指す

３．持続可能な地域社会の形成
～自立分散型と循環型のハイブリッドな社会の形成～

・中部圏が東京一極集中の是正を実現する「ひな型」を示す地域となる
・リニア開業・日本中央回廊形成効果を活かした圏域の活性化を図る

「Ⅱ．１．産業の進化と多様化」の構成

産業の進化と多様化を促進し、産業の社会システム化による新たな価値を提供

①産業の進化（施策）
- デジタル化・DX推進
- GX推進

②産業の多様化
- スタートアップ振興
- サービス産業等の振興

③産業エコシステム（生態系）形成

④産業の基盤強化
- 研究開発強化、知財・標準化戦略、エネルギー・半導体等重要物資確保他

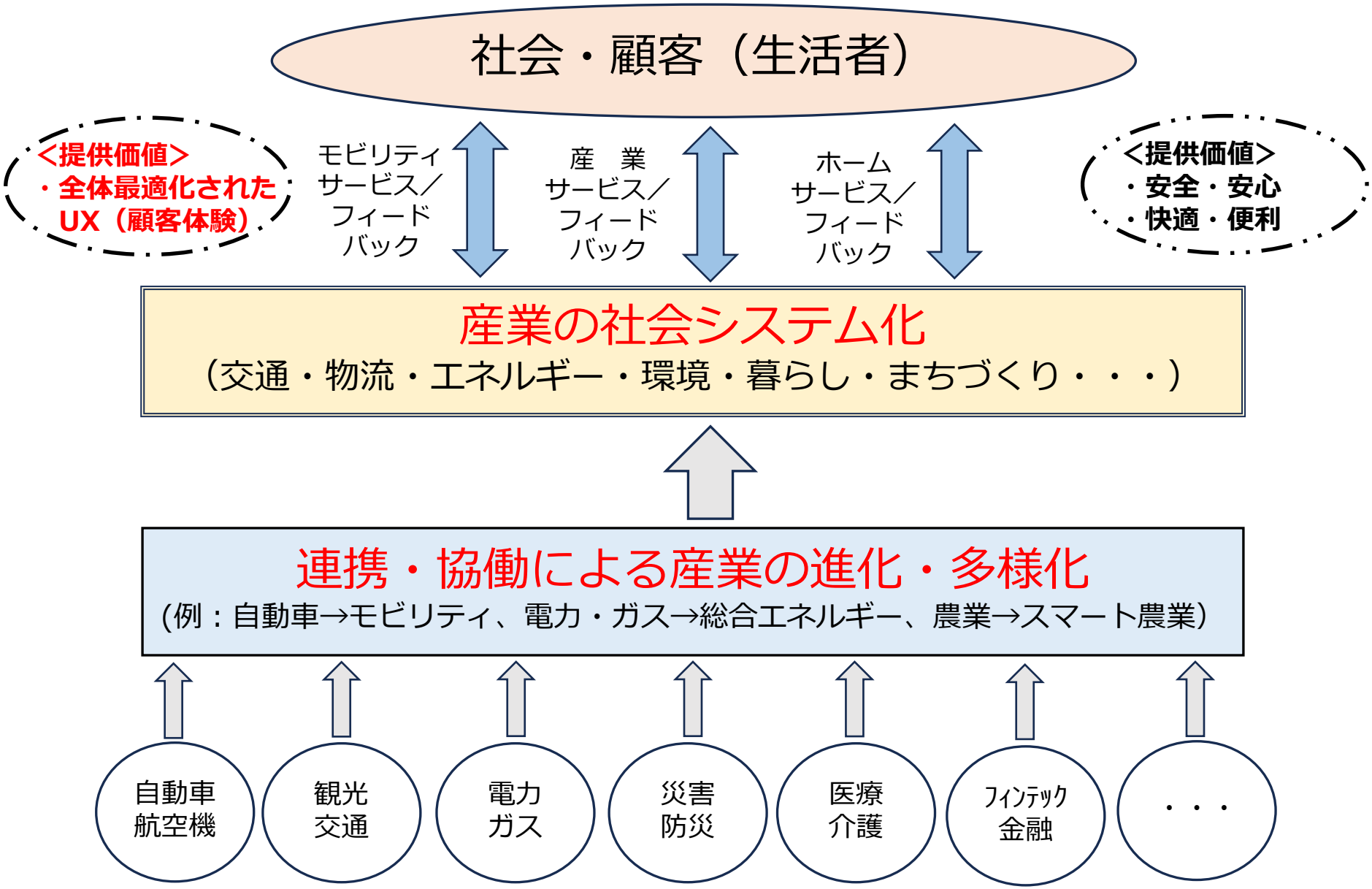
↓

産業の進化・多様化

↓

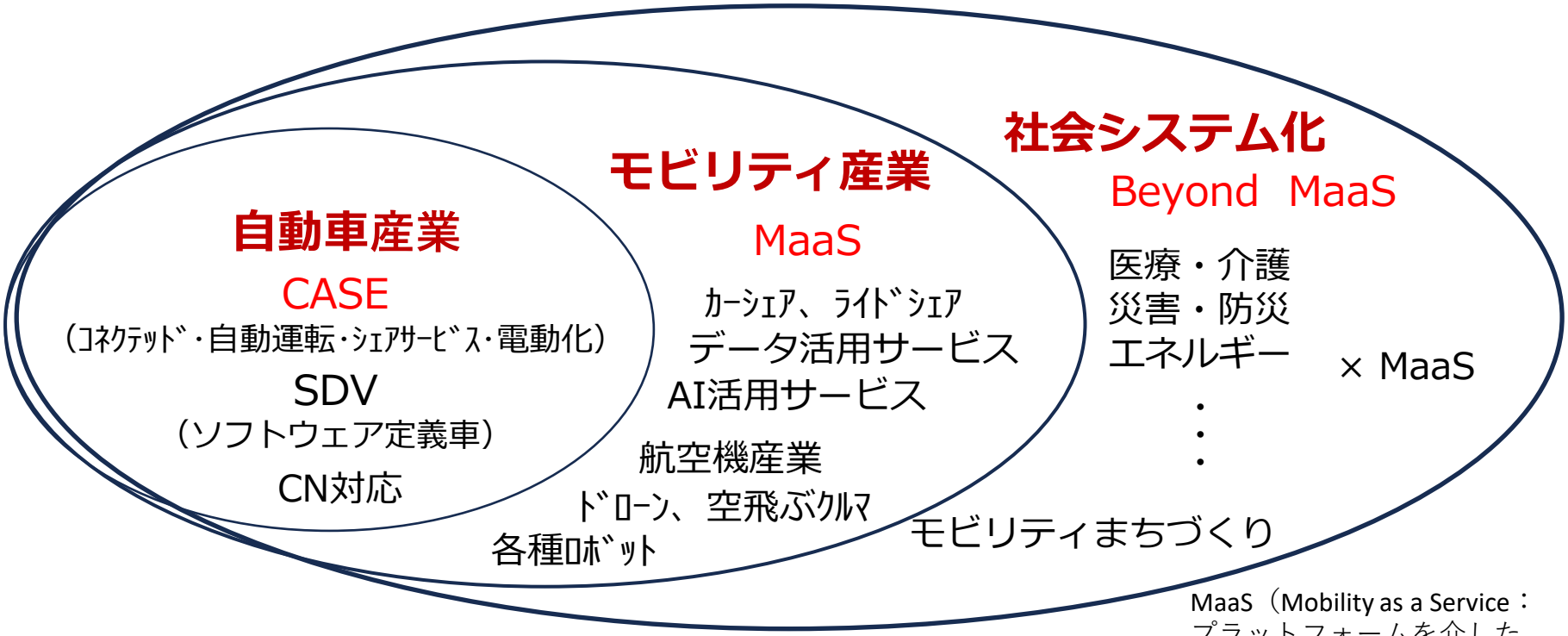
産業の社会システム化

「Ⅱ．１．産業の進化と多様化」：社会システム化による新たな価値の提供



「Ⅱ．１．産業の進化と多様化」：モビリティの事例

自動車産業からモビリティ産業、さらには社会システム化へと進化



MaaS（Mobility as a Service：プラットフォームを介した各種交通サービス）

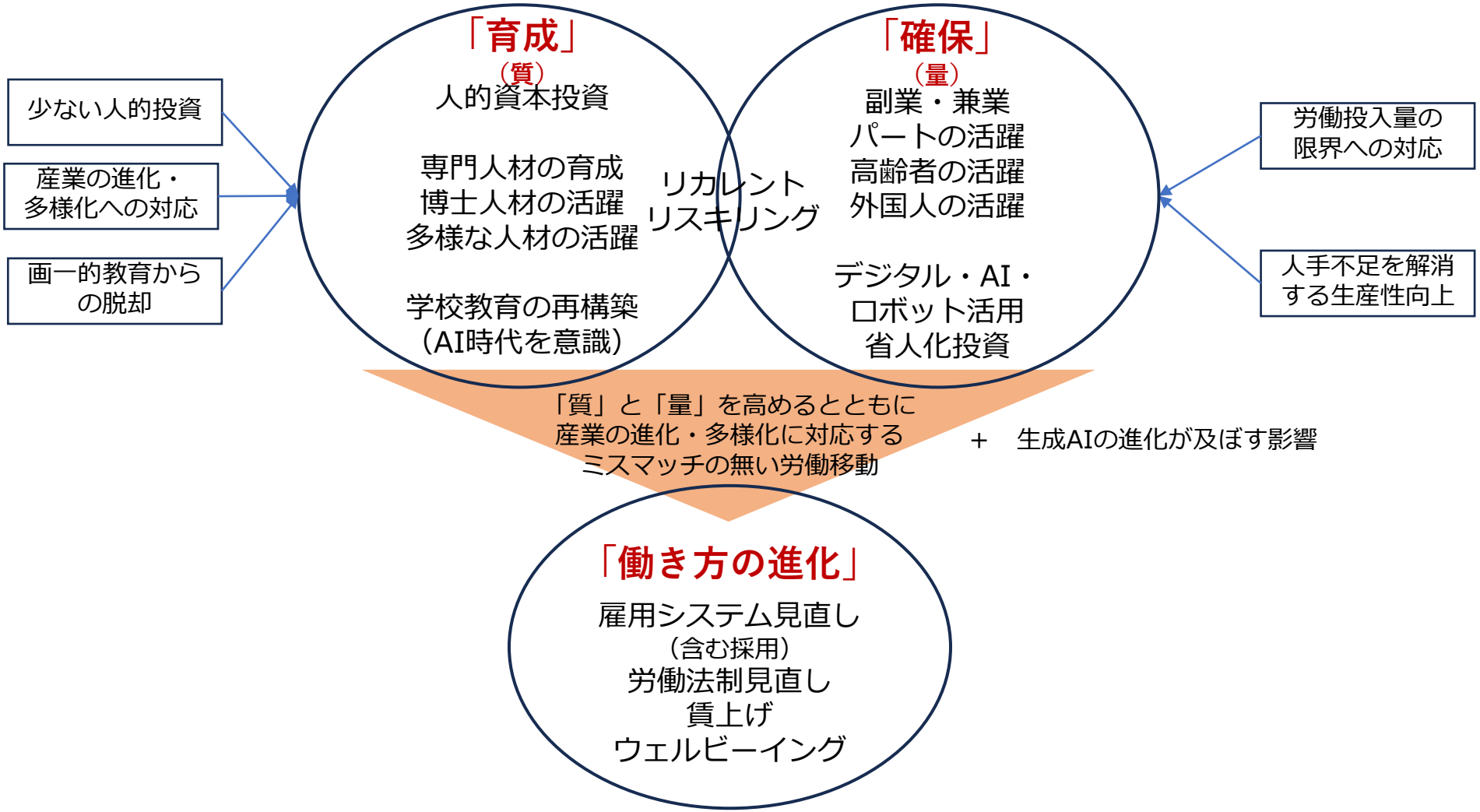
産業の進化：デジタル化・DX、GX、ビジネスエコシステム形成

産業の多様化：新技術・新産業創出（スタートアップ振興）、サービス産業等の振興

産業の基盤強化：研究開発強化、知財・標準化戦略、エネルギー・半導体等重要物資確保他

「Ⅱ．２．人材と働き方の進化」の構成

人材の「育成（質）」と「確保（量）」に着目し、これらを高める「働き方」を進化



「Ⅱ．３．持続可能な地域社会の形成」の構成

「１.産業」「２.人材」に加え、中部圏の地域社会の形成に向けた取り組みに、リニア・日本中央回廊の効果最大化を組み合わせ中部圏の持続可能性を各段に高める

１．産業の進化と多様化

２．人材と働き方の進化

持続可能性を高める社会システムの構築

自立分散型のまちづくり
モビリティまちづくり
脱炭素・循環経済・ネイチャーポジティブ
魅力ある地域づくり　等

適正なインフラの維持・形成

新たな環状道路、東西軸・南北軸の整備、港湾機能の強化
中部国際空港第二滑走路の整備
老朽化インフラへの対応　等

レジリエンス（防災・減災）の強化

南海トラフ地震
激化する風水害への
ハード・ソフト面での備え　等

デジタル化
DX推進

組み合わせることで中部圏の持続性が各段に向上

リニア開業効果・日本中央回廊の形成効果の最大化

＜第３次国土形成計画（全国計画）＞
全国的な回廊計画の中でも
国際競争力強化の観点で重要視

＜道路ネットワークの整備・活用＞
- 中間駅と南北を結ぶ高規格道路整備
- 中間駅と高規格道路のアクセス路整備
- 三大都市圏間の大動脈の多重化
- ネットワーク活用による産業振興、観光振興、災害時のバックアップ機能、ライフスタイル変化、国際競争力強化

＜中枢機能の形成＞
- 低コスト、住みやすさなどの環境も活かした本社機能の受け入れ促進
- 三大都市圏空港の相互補完によるリダンダンシー確保